



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/7 (月)	+ 300	+ 3,200	+ 3,500	国庫短期証券 発行・償還 (3M)	CP等買入 ▲ 100 国債補充供給 + 34,900		日：金融政策決定会合における主な意見 (7月27・28日分) 景気先行CI指数 (6月) 景気一致指数 (6月)
8/8 (火)	▲ 1,000	▲ 1,000	▲ 2,000				日：国際収支：経常収支 (6月) 米：貿易収支(6月)
8/9 (水)	▲ 2,000	▲ 12,000	▲ 14,000	国債発行 (30年)			
8/10 (木)	▲ 2,000	+ 15,000	+ 13,000	国庫短期証券 発行・償還 (6M)			日：国内企業物価指数 (7月) 米：CPI(7月)
8/11 (金)				山の日			米：PPI(7月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日比+6,300億円の542兆8,100億円から始まった。その後8月2日には税・保険揚げなどを主因に532兆円まで減少した。その後3日の国債買入オペを経て週末となる4日には535兆600億円まで増加し越週した。無担保コールON物は週を通して軟調な地合となった。同加重平均金利は週初▲0.061%から始まったものの、その後は調達意欲の減退から低下基調を辿り、週末となる4日には▲0.072%(速報)となった。

ターム物は1~2W物を中心に▲0.065%~▲0.050%の水準で出が見られた。

なお、日銀は7月31日に2023年2月22日以来の約5か月ぶりとなる臨時的国債買入オペをオファーした。

来週の予定は、国内では7日に日銀金融政策決定会合における主な意見 (7月27・28日分)、10日に国内企業物価指数 (7月) の公表があり、海外では10日に米CPI (7月)、11日に米PPI (7月) の公表がある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010

<レポ>

足許GCは週初▲0.09%近辺から出合い始め、週末まで▲0.10%~▲0.09%のレンジで推移した。2日の取引以降はレートが低下し、▲0.11%~▲0.10%が出合いの中心になった。

SC取引は2年435~451回債、5年146~159回債、10年350~371回債、20年179~185回債、30年65~79回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約3,000億円で、週間償還額 (約2,200億円) を上回った。発行市場は、案件数が限定的であったため、落ち着いたマーケットとなった。発行残高は前週末の27兆9,604億円から3日時点で28兆2,319億円と増加した。発行レートは概ね0%からプラス圏での出合いが中心であった。

来週の週間償還額は、約6,000億円となっている。発行市場は、夏季休暇を迎え落ち着いたマーケットとなることを予想する。発行レートは、0%近辺での出合いが中心となることを予想する。9日に、CP等買入オペが4,000億円でオファーされる予定となっている。

<TDB>

4日の3M (1173回債) の入札は、最高落札利回り▲0.0962% (前回債▲0.0962%)、平均落札利回り▲0.1014% (前回債▲0.1018%) となった。

来週は9日に6M、10日に3Mの入札が予定されている。